

やすらぎだより

10
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第184号

「いやおうなし」

業務執行理事 植田 誠



いくらオンライン面会が進んだとしても、いくらリモート会議が便利だとしても、心が満たされず侘しさが拭えないのは何故だろうか。最先端に疎い私のひがみ根性かも知れないが、面会に来られるご家族の表情を察すれば、心底から満足されておられるとは思えない。

‘新しい生活様式’と言えば聞こえは良いが、踏み込んで言うと誰もが感じているはずだ、いやおうなしさを。

このような現状を打破する鍵は、やはりワクチンなのだろうか。そんな特効薬の話が出るたびに思い出されるのは、世界で初めてアルツハイマー型認知症の進行を抑える画期的な新薬を開発された杉本八郎先生のことだ。

一流大学のエリート研究員でもなく、裕福な家庭環境でもなかった先生の努力の半生が実を結んだ新薬は塩酸ドネペジル（商品名アリセプト）。世界90カ国以上で認可されており我が国でも日常的に処方されている薬である。先生は今現在も、世の中が切望するアルツハイマー病の根本治療薬の開発に挑戦されておられるようだ。

十数年前のある講演会で聞いた先生の言葉は、私の脳裏を離れない。

「成功する人は、あきなめなかった人のことです」

逆境を乗り越えられたその人生と挑戦し続ける生き様に、発せられる重みある言葉は強く胸に響いた。

新型コロナウイルス感染症のワクチンが待ち遠しい昨今、開発先行しているのは我が国ではなくどうやら他国らしい。勿論、米国でも英国でも構わない、いわんや中国であっても。そのワクチンが広く世界に広まって、コロナ禍の時代が過ぎ去った歴史の救世主となるならば。

とは言え、本心はそうではない。日本が開発してほしいし、先人の偉人達をはじめ杉本先生のように日本人が生み出してほしいと強く願うことは、グローバルな社会にはそぐわない期待だろうか。

‘いやおうなし’の社会であっても、抱き続けたいこだわりは誰にでもある。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- | | |
|------------------|----------------|
| ○特別養護老人ホーム やすらぎ園 | ○ケアハウス やすらぎ |
| ○在宅サービス事業所 | ○介護予防関連事業 |
| 居宅介護支援事業所 | ○グループホーム むつみあい |
| 訪問介護事業 | ○住まいの生活支援事業 |
| 訪問入浴介護事業 | ○グループホームなごみ筒井 |
| ○短期入所生活介護事業 | |
| ○在宅介護支援センター | |
| ○天理市東部地域包括支援センター | |